

駒大高校 被災地応援活動 報告 2013年6月9日

昨年チアリーディング部が、復興夏祭りで応援演技を行った、宮城県岩沼市に、学校長・同窓会副会長はじめ生徒会の生徒5名が訪れ、緑の防潮堤「千年希望の丘」づくりをお手伝いしてきました。



1C 瀧さん, 1J 大橋さん, 2D 堂下くん
2F 中島くん, 2G 岡田くんの生徒会5名が参加してくれました。



根の浅い松ではなく、津波に負けない広葉樹を植える



参加者4000人以上
の大イベント



校長先生も苗を運びます

希望の木札
※参加者の
木札をつける
ことができます。



岩沼市 千年希望の丘とは...

岩沼市は仙台平野に位置し、広大な平野に農業地帯が広がっています。そのため、2011年3月11日には、津波が沿岸部の松林を倒し、かなり内陸の家屋まで津波が到達してしまいました。

そこで、海岸沿いに「命を救う避難場所」と「防潮堤」の役割を果たす、震災瓦礫で作った丘の公園を作ろうというのがこのプロジェクトです。

社会的意義がとても大きく、今回の第一号のイベントには日本各地から4000人を超える人が集まり、大イベントとなっていました。

駒大高校はこの活動を応援しており、昨年の文化祭模擬店の売上金もこのプロジェクトに寄付しています。

爪痕残る被災地

被災体験を聞くこともできました



初夏の候、ますます御健勝のこととお慶び申し上げます。

貴校におかれましては、市民夏祭りで激励をいただくなど折に触れて思いを寄せていただいておりますが、このたびの千年希望の丘植樹祭に際しましてもお心遣いを賜りましたことに心から感謝を申し上げます。

改めまして、東日本大震災の発生から2年3か月が経過いたしました。これまでの間、市ではスピード感とコスト意識をもち、被災地の復興モデルを目指して全力で復旧・復興にあたってまいりました。

岩沼市の復興プロジェクトの大きな柱の一つであります「千年希望の丘」の整備につきましては、ガレキを活用して丘を造り、津波の力の減衰、避難場所の確保、防災メモリアルとして整備を進めているものですが、6月9日、全国の皆様から寄附金などのご支援をいただきながら造成した第1号の丘に、植物生態学者の宮脇昭氏の植樹指導のもと植樹祭を開催いたしましたところ、全国各地から4,000人を超える方々に参加いただき、盛会裏に終えることができました。当日の様子は、新聞やテレビなどメディアでも大きく取り上げられ、岩沼の取り組みを全国に向けて発信することができました。財源など今後に向けての課題はありますが、被災地全体に希望をもたらす意味でも、しっかりと取り組んでいきたいと思っておりますので、引き続きご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、今後とも被災地、そして、岩沼市に思いを寄せていただくようお願い申し上げます。末筆ながら、貴殿のご多幸をお祈りし、御礼の挨拶とさせていただきます。

平成25年6月13日

駒澤大学高等学校校長

貫井 洋 殿

岩沼市長 井口 経明

復興モデル 世界へ発信

岩沼市 千年希望の丘完成

岩沼市が震災復興プロジェクトの柱と位置付ける、震災がれきを活用し、津波よけとして整備する「千年希望の丘」の第1号が完成。9日には、植樹祭「メモリアル樹望（きはう）式」が現地の相野釜地区で開かれた。県内外から約4000人が参加し、タブノキなど3万本の苗木を植栽した。造成工事は、安藤ハザマ・奥田建設・上の組・春山建設・佐藤建設JVが担当した。



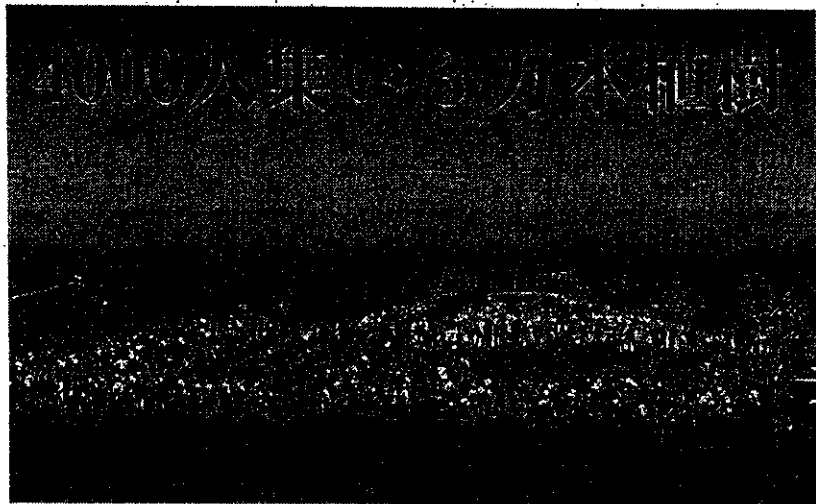
井口岩沼市長

同市は、仙台空港東側の相野釜地区に幅60〜76m、高さ8mの構内（だえん）の形をした人工丘を



「いのちを守る森の防潮堤」を提唱する宮脇氏（右）が植樹指導

1歩かもしれないが、



約4000人が集まる苗木植樹



細川元首相

復興のモデルとして全世界に発信していきたい」と話した。

また、来賓として出席した細川護熙元首相は、被災地の沿岸部約300kmにわたって植栽し、防潮堤づくりを目指す森の

るタブノキやスタジイなど苗木17種類の植栽方法を丁寧な解説した。
このほか来賓として、三浦秀一副知事や、井上義久衆議院議員、西村明宏衆議院議員、岡崎トミ子参議院議員、歌手の倉木麻衣さんらが多数駆けつけた。
初夏を思わせるような日差しの中、県内外から参加した約4000人は、復興への願いを込めて、約1時間にわたり、苗木を丁寧に植えていった。アトラクションや地元の特産販売などもあり、会場を盛り上げた。
同市の震災復興計画に盛り込まれた「千年希望の丘」は、沿岸部にがれきを利用した人工丘をつくり、貞山堀沿いの松林や、水田地帯に残る「居久根」と呼ばれる防風・防雪林、国が整備する海岸堤防などと一体的に、多重構造の防災施設として機能させるもの。
壊滅的な被害を受けた海岸線から貞山堀までのエリア（幅約11.5km、延長約10km）に、メモリアルパークとして、高さ約10mの丘を、既設の2基も含め15基整備する構想。総事業費は約45億円を見込む。第5回復興交付金事業計画では、6基分の事業費が認定され、5億6300万円を確保した。基本計画策定業務はエイト日本技術開発（東北支社・仙台市若林区）が担当している。

長城プロジェクトを紹介。「この植樹をきっかけに、多くの自治体に取り組みが広がっていくことを期待する」と述べ、さらなる協力を呼びかけた。

「いのちを守る森の防潮堤」を提唱する横浜国立大学名誉教授の宮脇昭氏は「危機をチャンスに東北から日本全域に、平成の森をつくっていきたい」と主張。今回植え

安藤ハザマJVが造成工

参加した 生徒会生徒による まとめの文 (校内新聞に記載予定)

まず初めに『千年希望の丘プロジェクト メモリアル樹望式』に参列した。これは、震災廃棄物や津波による堆積土を活用し沿岸一帯に、次の震災・津波時の波よけとなる丘を築造し、広葉樹 17 種延べ 30,000 本を植林するというもので、参加者は約 4000 人、報道陣も多数来るなど思いのほか大きな式典だった。

もっと簡単な、形式的な植樹祭かと思っていたがしっかりと斜面を掘らなければ樹の根が植わらないという、本格的なものだった。斜面が急であり、砂や瓦礫の土壌の為、シャベルで掘るたびに石などが崩れていくという状況だった。(図 1)

式典と言うよりも、祭典に近いような雰囲気だった。楽しみながらも、老若男女を問わず助け合いながら被災地の役に立てたと思えた。

次に、『岩沼みんなの家』の建築現場に挨拶に伺った。こちらは NPO 法人「がんばッと玉浦」さんが玉浦の復興拠点にと造っている物。

そして閑上中学校へ。校舎を見る前に、ムービーで勉強をした。校舎の時計は 14:46 を指したまま止まっていた。(図 3)

二階から上は一見無被害で、周りに建物があれば普通の学校。遠くから見ただけでは実感がわかなかった。(図 4)

話では、近くの公民館から閑上中学校に避難してくる途中で津波にのまれてしまった方も多かったらしい。

震災で私たちと年代の人が亡くなっていたのは知ってはいたが実感できていなかったが、校舎前の机に書いてあったメッセージや献花台と慰霊碑を見て初めて実感した。

机に書いてあった文章が「津波で友達を喪った」ではなく「突然友達を亡くした」というとらえ方だったので、身近なものに感じた。

近くの『閑上の記憶』にて、語り部の菊池さんのお話を伺うことができた。(図 5) 菊池さんはチリ地震と東日本大震災の二回津波に流されているそうだ。そして東日本大震災時には、自宅の二階部分ごと流されたとのことで、改めて津波の破壊力を知ることができた。

その後、閑上地区を見学した。実際に現地を見ても現実とは思えないほどの光景だった。あの震災から二年が経ち、雑草だらけになり、住宅地とは思えない光景が広がっていた。

「もともとこういう場所でした」と言われてしまえば納得できるほど何もなくて、説明が無ければ理解できなかった。(図 6) TV に出てくる『復興してきている被災地』ばかりを見ていて、この現状を知らない人が多いだろう。そんな人に是非一度は行ってほしい。他人から聞いてもこの光景は絶対に思い浮かばないだろう。

震災後には「忘れない」の文字が溢れていたが、忘れてるか忘れかけている人が多いのが現状だと思う。ニュースは『復興してきている被災地』ばかりを映すが、現実では『復興とは程遠い被災地』が存在するのもまた事実である。誰かの行動を待つのではなく、自分から何が出来るのかを考えることが大切だと思った。



(図 1)



(図 2)



(图 3)



(图 4)



(图 5)



(图 6)

2013年6月11日
 河北・読売・朝日
 日経・毎日・産経・その他



教訓、1000年先へ

岩沼希望の丘第1号完成

岩沼市が東日本大震災で被災した沿岸部約10キロで進める「千年希望の丘」事業の第1号となる人工丘が完成した。震災廃棄物を埋め立て、高さ9メートル、直径約70メートルの勢いを弱め、震災の教訓を伝える役割も期待される。

(18面に関連記事)

9日、現地で植樹祭が開かれ、全国から参加したボランティアら約4000人が丘につながる約400メートルの堤防にタマノ苗木を一本ずつ丁寧に植える参加者たち。岩沼市下野郷

命・記憶つなぐ緑の防潮堤

3万本の苗木植樹

千年希望の丘の斜面に植樹し、保湿度などとして使う稲わらを運び込む参加者

岩沼市が進める千年希望の丘「事業」で、第1号の人工丘が同市下野郷に完成した9日、現地では3万本の苗木を植える植樹祭「メモリアル樹まきぼうし」があり、参加者は震災の記憶を後世に伝える緑の防潮堤の意義をかみしめた。(1面に関連記事)

第1号の丘は高さ9メートル、直径約70メートル。約6000万円の寄付金を元に、震災廃棄物や津波堆積物を埋め立てて造成した。

植樹祭には、地元住民をはじめ、東北や首都圏、中部地方などのボランティアも参加。井口経明市長が「希望の丘は21世紀

岩沼・希望の丘第1号完成

の人類の知恵の遺産になる。復興のモラルとして全世界に発信できる」とあいさつした。

参加者は宮崎昭横浜国大名誉教授(森林生態学)の指導を受け、苗木の植樹に汗を流した。家族4人で訪れた岩沼市の30代主婦は「津波をかぶった土地だけに、子どもたちも特別な思い出で植樹したようだ。震災があったことを忘れてほしくない」と話した。

会場には歌手の倉木麻衣さんや熊本県のPRキャラクター「くまモン」なども駆け付け、植樹祭に華を添えた。

「千年希望の丘」は岩沼市の沿岸部約10キロで高さ10メートル前後、直径70メートルの人工丘を15基程度並べる計画で、うち2基は既設の丘を活用。丘の間は高さ約3メートルの堤防で結ぶ。津波発生時は丘が避難場所になり、津波の減衰効果も見込む。平時は震災の記憶をつなぐメモリアル公園になる。

総事業費は約45億円。これまでに6基分の復興交付金が認められたが、残り6基は今のところ財源のめどが立っていない。市は国内外に寄付を呼び掛けている。



2013年6月11日
 河北・読売・朝日
 日経・毎日・産経・その他



千年希望の丘で植樹する人たち(9日、岩沼市で)＝飯島啓太撮影

岩沼市沿岸部に、東日本大震災のがれきを活用した人工防潮丘「千年希望の丘」の第1号丘が9日、完成し、防災林で覆うための植樹祭が行われ、全国から集まった約4500人が、3万本の苗木を植えた。

千年希望の丘は、コンクリート片などのがれきで土台を築き、その上に津波堆積土や土を盛った円すい台状の人工の丘。普段はメモリアルパークとして防災教育の場などに活用し、災害時は津波の威力を抑え、避難場所にもなる。同市は沿岸部の約10

に計15基の築造を計画している。第1号丘は、直径が60〜76センチ、高さ8メートル。築造費約6000万円は、全国からの寄付で賄った。2基目以降は、復興交付金なども活用して整備する。

植樹祭では、カシやシイなど17種類の苗木が植えられた。茨城県日立市から家族で参加した飛田美紅さん(10)は、「初めてのボランティアで、人のために役立つことが出来てうれしい。木が大きくなった時に見に来たい」と話していた。

防潮丘に希望の植樹

がれきの丘に広葉樹

岩沼、ボランティア参加1カ所目完成

建設支援 カレー販売中

東日本大震災のがれきで造った丘に広葉樹を植えて津波から街を守る岩沼市の「千年希望の丘」の1カ所目が9日、完成した。

丘はそれぞれ高さ10メートル、横300センチほど。復興交付金などを活用しながら、同



完成した丘に植樹する参加者ら(9日、岩沼市下野郷)

2013年6月11日
 河北・読売・朝日
 日経・毎日・産経・その他



倉木麻衣さん(中央)らが参加した植樹祭＝岩沼市下野郷で

「千年希望の丘」1号完成

震災記憶伝承 4000人参加し植樹祭 岩沼

東日本大震災のがれきを活用し、避難場所や震災の記憶伝承の場となる丘陵地を造成・植樹する岩沼市の「千年希望の丘」事業で9日、同市相野釜地区に第1号の丘が完成し、植樹祭が行われた。同市は今後、沿岸部約10

にしき食品がつくった「千年カレー」「希望カレー」

丘の完成を後押ししようと、地元企業も協力する。「無印良品」などのレトルトカレーの製造を手がける岩沼市の食品会社「にしき食品」が、レトルトのインド風カレー「千年カレー」と「希望カレー」を9日から販売を始めた。1パック500円(税込み)で、うち10円が丘の建設費として寄付される。

岩沼市と東京・自由が丘にある同社の販売店か、ホームページ(http://nis hikiya-shop.com/)で販売している。



万本を植えた。

小学4年の長女と一緒に参加した、栃木県鹿沼市の金井友子さん(38)は「復興の力になりたいと思って参加した。自然を取り戻す活動で、いいと思う」と笑顔で汗を流していた。

2013年6月11日
 河北・読売・朝日
 日経・毎日・産経・その他

の14カ所に丘の整備を目指す。

丘は高さ8メートル、がれきを含め約3万5000立方メートルの土砂で造られた。

がれきを活用した防潮堤構想を提唱する宮脇昭・横浜国立大学名誉教授と構想推進を目指す公益財団法人「瓦礫を活かす森の長城プロジェクト」を設立した細川護照元首相や、歌手の倉木麻衣さんも参加した。倉木さんは「希望を作る気持ちを植えようだった。次世代に気持ちを伝えていくことが私たちの未来を守り、私たち自身を守ることにつながる。植樹祭には全国から4000人以上が参加し、タフノキやアラカシなど17種約3万本の苗木を植えた。井口経明市長は「復興を加速させるように

伝統の技と心 手づくりの酒

一蔵

電話 0229-55-3322 (代)

お酒は20歳になってから

【三浦研吉】